桜島の地域
おこし協力
隊員の紹介

協力隊が
見つけた
桜島の魅力

ヨーガンマルシェ
桜島小みかんの
最盛期を追って

グローバルな
クリスマス会を桜島で

他・地域イベントなど

発行・編集 / 桜島地域おこし協力隊
Photo・Editor / Akane Masudome
Thanks / Yurina Yamashita

協力隊員は、冊子をおいて頂ける場所、応援していただける方を募集しております。お気軽にお問い合わせください。

| お問い合せ先 |
a.masudome@sakurajima.gr.jp

＼桜島の皆さん、はじめまして／

皆さん、こんにちは。二〇二〇年十月より、桜島地域おこし協力隊員として、桜島にやってまいりました、押川(おしかわ)と増留(ますどめ)です。

この度、地域の皆さんと繋がる場を作りたいと思い立ち、このような回覧形式でちょっとした冊子を作らせていただきました。突然のことで「協力隊？」、「何？」と思われる方もいらっしゃると思いますので、まずはこの場をお借りして協力隊についてご紹介させてください。

「地域おこし協力隊」とは

総務省による、地域力の創造(地域としての能力を高め、引き出す)・地域の再生を目指した事業の一環として行われているものです。地域資源を活用した観光や産業の分野などにおける地域のブランド力の向上、特産品のPR、魅力・情報の発信など、桜島地域の活性化のために、その地に移り住み、右記のような活動に協力隊は取り組みます。地方自治体(桜島の協力隊は鹿児島市)からの委嘱を受けて、我々は今後これまでの経験や能力を活かして、行政では取り組むことが難しかった柔軟な地域おこしや生活環境の改善などを目標に、地域の皆さん方と協力しながら活動を行っていきます。

ますどめ　あかね
増留 愛香音です。
桜島に来てから、毎日素敵な出会い
と新たな発見の連続です!!
見かけたら声かけてくださいね

おしかわ　れんと
押川蓮斗と申します。
桜島は豊かな暮らしと
温かい人でできた島だと
住んでみて実感しました

「さくらじま便り」を通して目指したいこと

1　若者世代が鹿児島に帰ってきたい！と思えるような機会を作りたい

桜島の日常を本誌やインターネットで発信し、県外(島外)に出ていた若者に興味を持ってもらいたいです。

2　島内の良さや面白さを再発見！

“島の当たり前”を移住者視点でお伝えしたいです。

3　より地域の人と繋がるきっかけを作りたい！

島に移住してきた若者や仕事をしている人を紹介していきたいです。

まだまだ未熟者ですが、どうぞよろしくお願いいたします！難しかった柔軟な地域おこしや生活環境の改善などを目標に、地域の皆さん方と協力しながら活動を行っていきます☺

本誌を通して

今回、このような形で本誌を発行するきっかけとなったのは、「協力隊の視点で見つけた桜島は意外と島民が知らなかったり、当たり前になっているかも」というお言葉から「移住者の目線は、意外と桜島の魅力を再発見できるものなのかも」と気づきました。

また、島での日々を重ねるにつれ、「若い人がきてくれて良かった」というご年配の方からのお声を度々いただきました。でも実は桜島で活動しているさまざまな若者はいて、昨今の状況も重なり、お互いが存在を知らない、またはきっかけがないこともこちらに住まわせていただいて気づきました。

取材先で「撮った写真みたい！」そんなお言葉もいただき、本誌が桜島の中と外を繋ぐ「きっかけ」となることを願い、僭越ながら第1回目の回覧をお届け致します。

※マルシェとは？：フランス語で「市場」という意味で、最近では日本でも青空市などを「マルシェ」と呼ぶことが多い

大地の恵みに感謝 ヨーガンマルシェ※

赤水地区の女性たちを中心に、自然の恵み溢れる桜島を活かしながら、世代を超えて何かを作り上げることで、より地域と人同士の繋がりを築いていきたい、という想いからこのマルシェは始まったものです。今回3回目の開催となり、村山陶芸さんの駐車場スペースを利用して行われました。

今回は「密」になる状態を避けるため、これまでよりも規模を縮小しての実施となりましたが、島内から、そして観光に訪れていた県内外の方々も立ち寄り、桜島らしい温かな雰囲気のマルシェとなりました。

可能な限り桜島に根差したものを、というこだわりから桜島で育ったシクラメンなどの美しい花々やお野菜、ホクホクの甘い焼き芋、コーヒー、そして似顔絵や手作り小物や着物の再利用した商品などが並びました。

会場内には、屋外飲食スペースが設置され、そこの椅子が徐々に会場内の日陰のあるテントの後ろ側へ。気付くとたくさんのお花屋やお惣菜などを買った地域のおばあちゃん達が早速おみかんをおやつに楽しくおしゃべりされていました♪

また、子ども店長の姿もあり、「いらっしゃいませー」と自分で作ったアクセサリーや地域で採れたお花を販売する姿もあり、マルシェを盛り上げてくれる存在になっていました。

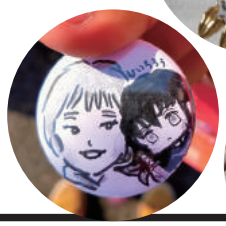
似顔絵を描いて、バッジにしてくださる赤水のアーティストさんのもとには多くの子ども達が、今大人気のアニメのキャラクターと自分を一緒に描いて！というリクエスト！で嬉しい忙しさだったようです。

さらに、今回初めて、地域のDJの方の協力をもらい、流れる音楽は自然と会場の雰囲気を作り出していました。

桜島内外、そして出店者同士の繋がりを作ることができた今回のマルシェ。普段と少し違うことや面白いと思うことをすることで、いつもは見えない桜島の一面をまた知ることができました。

次回の開催では、心置きなく沢山の方々に来場してもらえるよう、ダンスなどのステージショーでより賑やかなマルシェとなることを願いたいと思います。

出店・販売・藤崎園芸・お野菜・お弁当・よもぎ餅・焼き芋・手作りケーキ・豆ん茶屋 桜島コーヒー・似顔絵・古着屋・ハンドメイド・DJなど



みんなで応援!! 持久走大会 桜洲小学校

①ゴール直前の声援は特に盛り上がります！

②勢いよくスタートする子ども達

③親子でゴールに向かってラストスパート！

④微笑ましくなる全力応援！

昨年十二月三日、鹿児島市立桜洲小学校の持久走大会が小池町の海沿いの通りで行われ、新たに桜島の素敵な一面を知ることができました。

大会当日は朝から賑やかな声が外から聞こえ、駆けつけるとすでに子ども達や親御さん、近所の方々が海沿いの道に沿って並んで今か今かと待ちきれない様子。また、島の皆さんと集まる機会が近頃は制限されていたこともあり、多くの同世代ぐらいの親御さんの姿に個人的には驚きました。

一から六年生、各学年二十名弱から十名前後のクラスということで、二学年合同でのスタート。この日は特に寒い朝でしたが、いざ始まると道の両脇から拍手とともに「がんばれーーー！」という力強い声援。顔を真っ赤にしながらもそれぞれが出せる力を出して走る子ども達、それと同じぐらい全力のみんなの応援する姿には、親御さんだけではなく、地域の皆さんの姿も多くありました。

また、とても印象的だったのが「全力で送るみんなの声援」。特に子ども達は、ゴール前にやって来る子の名前を精一杯叫んで応援！そこには、分別なく皆がみんなを同じように応援する姿。今は気づかないかもしれませんが、こんな島の当たり前の姿が、将来かけがえのないものになっていくことを、きっと島の子ども達はゆくゆくは気づいて、「やっぱり桜島いいなー」、と思うのかもしれません。ちなみに応援に必死になり、前のめりになりすぎて子ども達を抑える先生は必死のご様子でした…

そしてもうひとつは、ゴール近くにくると、自分のお子さんに寄り添って走る親御さんの姿。街中の持久走大会で、こういう姿はあまり目にすることはなく、またみんな恥ずかしがっちゃうかもしれません。でもここではそれが普通のこと♪島の当たり前は、桜島の魅力の一つです。生徒の皆さん、そして先生方本当にお疲れ様でした！

グローバルなクリスマスを桜島で☆彡

昨年十二月の十七・十九日、世界中が自粛ムードの中、グローバルな視野を忘れず、楽しみを桜島にも持っていきたいという思いから、外国の歌や文化に触れるクリスマスイベントが、垂水のE-Labo（イーラボ）語学教室さん主催で、桜島フェリーターミナル内のMINATO CAFE（ミナトカフェ）さんのスペースを利用して行われました。

今回は大きく告知はできませんでしたが、それでも教室の生徒さんだけでなく、歌や踊り、海外文化に興味ある方々などが集まり、子どもから大人まで音楽と語学を楽しむ時間となりました。

何年も同教室で学んできた生徒さんの堂々とした英語の歌に、語学を習いたての子ども達も「すごい！」と目を輝かせていました。

また、カフェには様々な国の写真や雑貨など「クリスマス」と「世界」がコラボレーションした色鮮やかな空間が表現され、より一層会場の雰囲気が盛り上がりました。

「オンラインでの打ち合わせや練習に、コロナ渦でもどうしたら皆が笑顔で楽しいクリスマスを過ごせるかと考えましたが、色んな制限があっても、皆の挑戦する姿を見ることができて、とても感動しました。いつかまた、世界が開かれ沢山の方々が桜島を訪れ、国際的な交流が盛んになることを願い、いま私たちにできる精一杯の活動を通して、楽しい体験を産み出していけたらと思います。」と同教室代表の紺屋絵里子さんは笑顔で話してくださいました。。

E-Labo（イーラボ）の「E」はEnjoy＝楽しむ、という英語から来たもので、Enjoy the Difference＝違いを楽しむというのが、同教室が目指すもの。今後も桜島に多くの楽しみを届けてくれることを期待して、協力隊も一緒にイベントなどを考えて行きます！

E-Labo語学教室
✉：vivaviva890@gmail.com
☎:：090-9076-1974
Facebook：E-labo
代表: 紺屋絵里子

桜島小みかんの最盛期を追って

桜島、そして鹿児島県のシンボルの一つ、「桜島小みかん」。当たり前になっているその存在の裏には、生産者の方の苦労があり、また島内の人々、そして生活を結んでいました。着任してようやく4カ月ほどですが、今回は各所にお邪魔させていただいた時の様子を移住者目線でお伝えします！

桜島小みかんハサミ入れ式

昨年十一月二十六日、桜島小みかんのハサミ入れ式が青空のもと、小池町の萩原孝一郎さんの果樹園にて行われました。

式では、始めに今期の小みかんの収穫・出荷の無事を祈る神事、関係各所・桜島保育園の子ども達によるテープカットが行われ、暖かな青空のもとハサミ入れ式がスタートしました。

子ども達は桜島小みかん娘さん達と一緒に、ずいぶん慣れた手つきでチョキチョキ！そしてパクパク♪（さすが地元っ子だからでしょうか？）

各社からの取材をこなす子ども達の姿。これも桜島の子ども達の大事なお仕事なのかもしれませんね。

今年は、日照不足や台風襲来で小みかんの出来が心配されたそうですが、農家さんの努力と愛情のおかげで、「色づきも味も良いものになった」、とこの一年を振り返られていた萩原さん。もともとはサラリーマンで、十数年前にお母さまから農園を引き継ぎ、ここまでやってきたそうで、「経験ある人に聞きながらなんとかやってきた」とご苦労あっての今を語ってくださいました。

実は今回のハサミ入れ式より少し前に、各果樹園の巡回にも同行させていただき、火山灰による被害というのも教えていただきました。地元では灰の種類を、赤灰、黒灰、白灰と呼んでいて、なかでも赤灰は褐変（赤茶色に変色）、葉焼け、実のひび割れなど起こすそうで、鹿児島では当たり前の天気予報の一つ、「降灰予報」を常に確認されているそうです。その土地その土地での苦労を乗り越えながら毎年生産・出荷してくださっている農家さんには本当に感謝です。

①

②

③

④

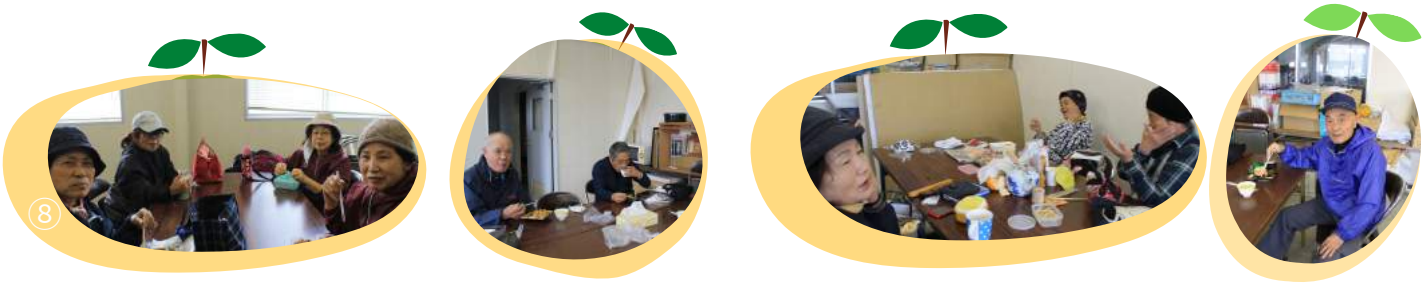
⑤

桜島小みかん 最盛期の裏側で

十二月一日～下旬にかけて島内の選果場では今期の桜島小みかんの全国各地への発送に向け、大忙しとなっていました。島内の各農家さんのところから、毎日約六トンの小みかんが運ばれてくるそうですが、例年に比べ、量はそこまで多くないとのこと。それでも計一三〇トンほどの小みかんが、場内を鮮やかなに賑やかに彩っていました。

この時期の選果場になくてはならないのが、地元のお父さん・お母さん方の存在。朝から夕方ちかくまで、休憩を挟みながらの立ち仕事です。お話を聞かせていただきながらも、その手は止まらず、聞くと選果場での短期アルバイトは「十年以上」、いや「あの人はそれ以上のプロよ！」とはにかみながら教えてくださいました。つまり皆さんプロ！。目視で最終選別しながら無駄のない動きのお母さん方、そしてその手でものの見事に箱に収まる小みかん、熟練の技です！

そんな皆さんの楽しみはやはり昼食とおやつの時間。お菓子は持ち寄り、お弁当は手作りからインスタント、まで。わいわいがやがや、つかの間のひと時に、やっぱりはにかみながら写真に写ってくださいました。



この時期ここでのちょっとしたお小遣い稼ぎ、という感じになっているようですが、「孫へのお年玉稼ぎよー」とのこと。小みかんがお孫さん達のお年玉も支えてくれているなんて桜島らしくて素敵なお話です。

世界一小さいと言われる桜島小みかん。名ばかりが先に行ってしまいがちですが、灰の影響など厳しい環境の中でも大事に大事に育てる農家さん、それを支える指導員などの皆さん、そしてその門出を見送る選果場の皆さんのおかげでこの「さくらじまっ子」が全国に旅発つことができる、また一つ桜島の姿を知りました。

【写真説明】
①収穫後に小みかんを両手にみんなで記念写真撮影
②桜島小みかん娘さんと一緒に収穫
③今回のハサミ入れ式が行われた果樹園の萩原さん
④ふたりで仲良く、カゴいっぱい収穫したよ♪
⑤保育園からも代表で2名が大人に混ざって、テープカット！上手にできたよ！！
⑥選果場で朝から小みかんの箱詰め作業を行う、地域のお母さん方
⑦場内では箱詰めを行う人、それを運ぶ人、と沢山の方が作業をされていました
⑧お昼時間にお邪魔した際に撮らせていただきました！皆さんありがとうございました！！
⑨光センサーを利用し、外観（サイズや傷など）や糖度・酸度等の管理が行われています
⑩箱詰め方法にも一人ひとり熟練の技が。こちらは、先に選別して並べ、一気に箱へ！

「厄介モノだけではない」
桜島の火山灰を利用したアート作品展

昨年、十一月　火山灰アーティスト・KYOCOさんによる、Volcanic Ash Art展「Hi!」が鹿児島市役所本庁近く、名山町のレトロフトMuseo（ギャラリー）にて行われました。

「火山灰を使って絵を描かせていただくこの活動を、私は桜島さんから他己紹介を仰せつかっている、と思っています。活きた火山が日本の最南端、人口六十万人都市のすぐ目の前にあるコトを、そしてそれは災害や厄介なモノだけでなく、様々な恵みをもたらすこと。それらを桜島に代わって、お伝えする役割をいただいたような気持ちで絵を描かせて書いています。作品展を通して、桜島や火山灰の見方が少しでも変わるきっかけとなれば嬉しい」と桜島を思う気持ちをKYOCOさんは語ってくださいました。

どれも「素敵」の一言では言い表せない、灰の可能性を存分に引き出している画がキャンバス一面にに広がっていました。

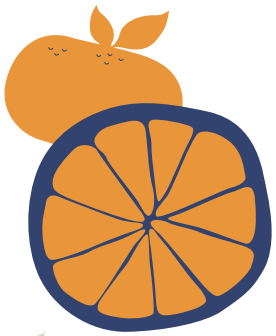
【お知らせ】

桜島ビジターセンター（横山町）に月一回ほどのペースで火山灰アート一作品が展示されることになりました！、近くにお越しの際には、ぜひふらっと立ち寄って作品に触れてもらえると、この島の可能性をまた一つ感じていただけるのではないでしょうか。

【皆さまのご意見やご依頼募集中】

創刊号を迎えた「さくらじま便り」。まだまだ試作段階で、これからより地域に根差したものにしていきたいと思っています。こういったことを載せて欲しい、今度こういったことをやるから、良かったら取材して！、など、地域の皆さんと作る回覧情報誌としての形を少しずつですが、目指していきますので、お気づきの点などこちらまでご連絡ください。

・連絡先
電話
〇九九ー二四五ー二五五〇
（増留宛）



「創刊号の編集を終えて」

地域おこし協力隊として着任して早くも四ケ月が経ちました。昨年から、大きなイベントや人との集まりが難しくなり、行事を通して地域の方々とお会いする機会というのも、残念ながら参加がかないませんでした。そんな中で挑戦してみたのさくらじま便り」。時間が限られている中で、今年のはじめには必ず作成すると決め、半ば強引に作り、まだまだ載せたかったことが入りきらない状態での発行となりました。

そんな中、地域のデザイナーの方も協力してくださり、本誌発行に至りました。

ようやく最初の一歩といったところですが、桜島の皆さんに根差した存在になれるよう、皆さんのお力をお借りしながら、今後も本誌を作成していきます。

最後に、本誌作成に関わってくださった関係各所の皆さまにはこの場をお借りして、心から感謝申し上げます。皆さま引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

桜島地域おこし協力隊
増留　愛香音